

# ADLIB

## MONTHLY BEST CD SOUND SELECTION

今月の優秀録音盤 編集部と3人の選者が選出した注目の新譜の録音をチェック

●小林真●及川公生●櫻井隆章

曲ごとに音づくりが変わっていてバラエティあふれる録音だ。とくにパーカッションのバランスが抜群



▲イーボ/イーボ・ヘルマン：キング (Paddle Wheel) KICJ-19

トラックによって録音の状態が大きく違っていても面白い。トラック3の〈カーネーションとバラ〉はドラムスもサククスも狭いデッドな空間の鳴りをしている、音に伸びがないが、トラック2〈ネスタ・ルア〉はアコースティックに伸びのいい音がしている。それぞれ、音に艶がありいい録音だ。これはエコー処理だけの問題ではなく、音の廻りこみとか、音の抜けの良さの配慮の違いであろう。

物理的なFレンジの広さとか、Dレンジのひろさが十分に感じられ、その面でもいい録音といえよう。パーカッションとかドラムスのバランスの扱い方は素晴らしい。音に伸びがあって、輪郭のメリハリも適度にあって、厚いサウンドだ。

(及川)